

報 告

PPC2012 西日本国際福祉機器展に参加して

総合せき損センター 小林 博光

1. 地方の福祉機器展

毎年、9月末頃に開催される、国際福祉機器展(H.C.R.)は、国内最大の福祉機器展示会であるが、このほかにも、大阪でバリアフリー、愛知でウェルフェアなど、地方都市でも同様の福祉機器展が開催されている。そんななか、福岡では「西日本国際福祉機器展」が開催されている。

今年で14回目の開催となり、例年「PPC20xx」のように表記されるが、PPCとは「People-to-People Communication」の頭文字からとったものとのこと。地方ならではの暖かみを感じる。

出展社数は、併催のトータルリビングショーを含め、192社。来場者数は同様の計算で約2万5千人とのことであった。ほかの三大福祉機器展と比較しても圧倒的に少ない数ではあるが、数字で勝負するようなご時世ではないと思うし、数字で表現できない楽しさも味わえた。

そんな西日本国際福祉機器展に、2012年11月10～11日の二日間参加したので報告する。

2. 見ごたえ

西日本トータルリビングショーとの併催なので、住宅関連設備などとあわせて見ることができる。家庭用エレベータや自動ドアなど福祉的要素のあるモノから、環境や健康をうたった建築部材まで、福祉の範疇にこだわることなく広範囲な情報が得られた。

たとえば家庭用エレベータのブースへ、別のブースから借りてきたリクライニング機能付き介助用車いすを持ち込み、壁との間隙の長さや操作スイッチのアクセス性など、実際の使用状況を確認することができた。

もう一つ気に入ったのが、住宅内の壁に塗りつける漆喰等の材料を取り扱うブースで見た、「鉄粉入り塗料」と「黒板化塗料」である。鉄粉入りは壁面に磁石をつけることができ、黒板化はその通り、壁が黒板になる。自宅における様々なリハビリ的動作にも使えそうであると感じた。身体的な障害だけでなく、感覚障害や発達障害など多域に応用できそうだ。

来場者数が少ないということは、裏を返すと、出展者スタッフとじっくりゆっくり話し合ったり、順番待ちを気にしたりすることなく、満足するまで展示品を試することができるというメリットでもある。前述の家庭用エレベータのように、他のブースから何かを借りて別のブースへ行ってみることは、ほかの大規模な福祉機器展では実現できないであろう。

このように、地方の小さな展示会でも、見方によってはそれなりに情報が得られたり、そこでしか得られない機会があったりするものである。

3. リハ工学ディスカッション

様々なセミナーも会期中に行われたが、当協会では「リハ工学ディスカッション～道具で広がる世界～」が開催された。講師/司会は僭越ながら筆者が担当した。内容は、協会誌『リハビリテーション・エンジニアリング』のVol.27 No.2「道具で広がる世界」の朗読と意見交換会である。

協会員でない方も参加できるよう、PCプロジェクタでスクリーンに投影しながら朗読し、会場から福祉機器の適合の現場で作る道具について、有意義な意見交換ができた。

リハ工学カンファレンスのような規模の大きいイベントではなく、このような地方会的なイベントは、福祉機器展などの他のイベントに併せて開催すると、参加しやすくなったり、より広い情報を得ることが出来るだろうと思っている。

来年度にも期待したい。

総合せき損センター

〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須 550-4